

REPORTS

第8回Joint Student Seminar for Civil Infrastructure 開催

9月12日(木)～13日(金)に第8回 Joint Student Seminar for Civil Infrastructureが、タイ王国 アジア工科大学院(AIT)で実施されました。本セミナーは、本所がAITに設置しているRegional Office for Urban Safety (RNUS) が主催するもので、3年ぶりの開催となりました。Dieter Trau AIT工学部長、本所 岸 利治 所長、Pennung Warnitchai AIT土木工学科長による大学、研究所紹介に続き、本所 水谷 司 准教授、本間 裕大 准教授、辻 政信 宇宙航空研究開発機構(JAXA)バンコクオフィスセンター長、山下 邦明 日本学術会議(JSPS)バンコクオフィスセンター長、Sao Hone Pha ヤンゴン工科大学リモートセンシングセンター長が講演を行いました。午後は、タイ、日本、ミャンマー、インド、バングラデシュ、スリランカ、ベトナムなど多彩な国々の学生によるポスターセッションが実施され、18名の

発表ポスターをもとに、闊達な議論が交されました。その後、竹内 渉 教授による、ポータブルセンサーを用いたPM2.5の計測と題して、スマートフォンとセンサーを手にAITのキャンパスを歩き回り、大気環境計測の体験デモが行われました。2日目には、バンコク中心部で進む地下鉄拡張工事現場を訪問し、トンネル掘削マシンを間近にした一同は、空間スケールの大きさと、思いのほかきれいに整備された工事現場を興味深く見学しました。タイを周辺としたASEAN諸国では、社会インフラ整備が着実に進む中、大気汚染や林野火災をはじめとした環境問題に社会の関心が高まりつつあり、生研タイオフィスとして、今後ともその重要性を発揮していくべく、活動を強化する必要性を改めて感じました。

(人間・社会系部門 教授 竹内 渉)



左から、Dieter Trau AIT 工学部長、
Pennung Warnitchai AIT 土木工学科長、岸 利治 所長



セミナーの様子



参加者全員での集合写真



バンコク地下鉄工事現場見学集合写真